

くれあ通信 5月号

日増しに暖かさをましている今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。いまだ余震が続く中、原発の不安が払しょくされることもないままに日々が過ぎていっています。我々に今できることを一生懸命することが復興への近道だと信じております。頑張ってくださいませよう！

さて、ここ朝霞のオフィスも計画停電のグループに入っており、これまでに一度だけ停電がありました。その停電も午後6時過ぎであったため、終業時間を過ぎてからのことでした。埼玉で事業されている方々から話を聞くと、もっと頻繁に計画停電が実施されているところもあったようです。それから比べるとほとんど業務への影響もありませんでしたから、大変幸せな状況であると思います。しかしながら、停電はこれらが本番です。夏場は各企業では75%の電力で業務をまかなうよう努力が求められます。

私たちの仕事も大きく影響を受ける可能性があります。ノートパソコンで仕事をしている場合はバッテリーがありますので、多少の停電であれば継続して業務が可能です。

詳細な情報はこれからになりますが、大幅に電力をカットした業務推進を今から準備してまいります。



朝霞紹介



前回、朝霞の有名人のお話を少しいたしました。今回はそんな有名人のお一人をご紹介します。

それは、若くして白血病にかかり、闘病生活の末亡くなられた本多美奈子さんです。彼女は幼少から朝霞に育ち、そしてスターになりました。朝霞の街を愛し、亡くなられた時には多くのファンが朝霞の斎場に訪れたそうです。

去年、ちょうどクレアが創業した頃に朝霞駅は駅ナカショップ22店舗がオープンいたしました。「EQUIA朝霞」と名

付けられたこの複合施設のイメージキャラクターは、本多美奈子さんでした。

2007年、彼女の記念碑が朝霞駅南口駅前広場に建設されました。日々、朝霞駅に行きかう人々をやさしく見つめながら、「新世界」の歌声とともに朝霞の女神となり輝き続けています。



映画紹介

『巴里の屋根の下』

古典フランス映画の巨匠ルネ・クレールのトーキー第1作がこの『巴里の屋根の下』でした。映画は同名の主題歌に彩られながら、巧妙そして緻密に優しく物語を運んでいきます。この映画の魅力はなんといってもそのトーンでしょう。優しく時に切ない主人公アルベールへの私たちの思いもまた、この主題歌とともにパリの空を埋め尽くすのでした。とは言っても、さすがは映画の魔術師。影をうまく利用した男女の心の交錯には脱帽させられるし、実

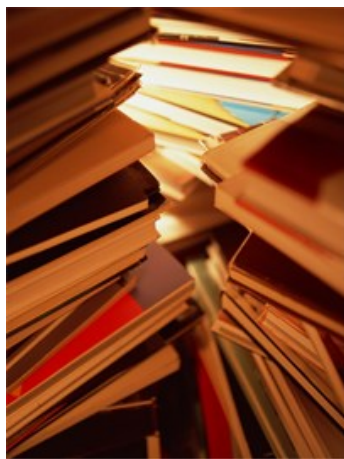
験とはとても思えないトーキーを巧みに利用した声の剥奪には感動の溜息すら覚えてしまうのです。物語終盤のわざとサイコロ勝負で負けを演出するあのシーンはこの映画のあたたかみのすべてを表現しています。いつの時代にもその輝きが失われない映画です。

巴里の屋根の下
Sous les toits de Paris
1930

Director: René Clair
Writer: René Clair
Cast: Albert Préjean
Pola Illéry



書籍紹介



『日の名残り』 カズオ・イシグロ

カズオ・イシグロの長編第三作目として発表され、英国最高の文学賞、ブッカー賞を受賞した作品です。

イギリスの名家に仕える執事として、その職務に半生をかけてきた主人公。ある日主人から暇をもらい、元同僚の女中頭へ会いに旅に出る—

主人公は執事という職務を、『品格』とは何かを問い続けながら、その人生をかけて追及しています。旅の道中で折に触れて過去を振り返り、反省や、

時に自尊心を伺わせる経験を回想します。この人生は正しかったのか？すべて過ちだったのか？苦悩と疲労を漂わせる主人公に、しかし私が受けた印象は「美」でした。

村上春樹が好きな作家として紹介していたので興味を持ったのですが、久々に良い本に出会えた感動がありました。アンソニー・ホプキンス主演で映画化されているので、そちらを見るのも楽しみです。

Crea

コンピューターソフトウェアの企画、開発なら株式会社クレアへ